



第56号 平成24年2月29日
作成者 池部徹
…生きる意味…

大病や事故etc. で奇跡的に助かった人が、与えられた命・第二の人生だから…とその後人生が好転していく話を聞きますが、正直“与えられた”という表現が長年理解できませんでした。でも、



数年前、ユダヤ人の精神科医ヴィクトル・フランクルの言葉に出会ってなんとなく理解できたのを覚えています。彼はフロイトの理論『人間は快樂を求めて生きる』に対し『人間はある生き方を求めて生きる』と反論しました。

彼はナチスのアウシュビッツ強制収容所で地獄を体験し、生命の尊厳・意味に直面するわけです。決して屈強な体格なものが生き延びるわけではなく、存在価値・生きる意味を見出したものが生き延びたのです。

『あなたが人生に期待するのではない、あなたの生命があなたの人生に期待をもっているのだ』

まるで、自分の命は自分の所有物でなく(与えられた)別の人格を持っているかのような表現…私はこの言葉に大きなエネルギーと共感を覚えます。



救われたと感じた人はこの魂の叫びに気付くのだと思います。もう、自分の命だから…と軽く言えないですね。